

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・閉店を控えているという特殊要因が店舗来店への動機づけの後押しとなり、来客数の増加、購買率の上昇がみられる。ただ、地方都市の小売販売全体として、プラスアルファの需要が喚起されるほどの力強さがあるとはいえない。
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・夏のセールのスタート以後、客の購買力が高まっている。外国人観光客の売上は相変わらずマイナス傾向だが、来客数が増加しているため、客単価が下げ止まればマイナス幅も縮小してくる。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・初夏を迎えてイベントが開催されていることから、外国人観光客や一般市民が街を歩いており、それに伴い店舗への来店も増えている。売上は前年から12%のアップとなった。例年よりも気温が低いなか、浴衣などの単価の低い商材が動いている。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・例年、この時期は低単価商材の販売が中心となるが、今年はオーダースーツが好調である。夏のボーナスが影響しているとみられる。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・前年と比べてわずかではあるが来場者数が増えている。例年であれば、暑い日が続くと外出を控える客が増える傾向にあるが、今年は涼を求めてショールームに来場する客が増えている。そのため、これから売上が伸びることを期待している。
		その他専門店【医薬品】（経営者）	それ以外	・来客数、客単価がようやく上向きになってきた。地道な積み重ねもあり、目先のチラシ、特売などに左右されるのではなく、安心できる軽医療機関として当店が少しずつ認められてきたようだ。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・夏休みに入り観光客の入込はあるものの、当店の人手不足、社員のスキル不足により回転率が上がってこない。ただ、それでも売上は前年から5%の増加となった。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・夏場の観光シーズンを迎えて観光客の動きが活発になっている。しかし、季節運航の航空路線の運航期間短縮の影響もあり、前年比では伸び悩みがみられる。
		タクシー運転手	単価の動き	・3か月前からみると、月を増すごとに売上が上向いている。4月の売上が前年比98%、5月が前年比115%、6月が前年比113%、7月が前年比112%と上向き傾向にあり、この先の予約も数か月先までは順調に入ってきている。例年、当社は夏季の売上がやや良くなるが、今年は予想以上である。
		その他サービスの動向を把握できる者【フェリー】（従業員）	来客数の動き	・観光の最盛期を迎えて、旅客、車両ともに輸送量が1年のピークとなってきている。特に個人観光客の増加が目立っている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子がこれまでと変わらない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月は各種の全道大会などが3回行われたこともあり、3か月前と比較すると他地域からの来街者が増加したほか、中華圏からの外国人観光客も家族連れのグループを中心に増加している。一方、中旬以降、天候不順の日が続いたこともあり、周辺住民による来街が減少したほか、夏休み期間中の中高生の遊興目的の来街が伸びなかった。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・7月は全体的に良くも悪くもない状態であった。今年は例年よりも涼しいためか、夏の必需品の販売量が伸び悩んでいる。	
	商店街（代表者）	販売量の動き	・気温が上がってこないため、全体としては3か月前と変わらない。	
	一般小売店【土産】（経営者）	お客様の様子	・依然として日本人観光客が増えてこない。また、客単価も年々低くなってきている。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数が前年比97%となり、ここ数か月では低い水準となった。外国人観光客が前年比80%を切るなど、外国人観光客の減少が大きく影響している。そのほか、ギフトセンターの売上が若干前年を下回ったものの、セールや秋物定価品は前年並みとなった。特に秋物定価品は客単価アップもみられ、前年の売上を上回った。	

百貨店（担当者）	来客数の動き	・中旬までは前年並みで推移していたものの、それ以降は前年を下回って推移している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・売場を大きく改装したベビー用品は好調に推移しているが、重販の季節商材の販売状況が全般的に悪く、バーゲン待ちの様子がうかがえる。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っており、回復の兆しが見えてこない。商品価格が前年を上回っているため、かろうじて売上が前年を上回っている状況であり、こうした傾向がしばらく続くと思われる。
スーパー（役員）	販売量の動き	・ここ数か月、客単価が前年比で100%を超えている。商品単価が前年から1%落ちているものの、平均買上点数が前年から1.5%アップしていることが影響している。前年は各地域でプレミアム付商品券を発行していたこともあり、7月の売上は前年と比べて減少しているように見えるが、景況感に変化はみられない。
スーパー（役員）	それ以外	・北海道新幹線の開業効果がなかなか地域全体に波及してこない。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・7月は日照不足や最高気温の低い日が続いていたことにより、主力商材である飲料水やアイスクリームなどの動きが悪く、苦戦している。来客数はここ数か月横ばいで推移しているが、前年を下回っている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・沿岸部でこんぶ漁が解禁となったこともあり、一部の店舗では売上の増加がみられる。しかし、さけ・ます漁の代替のいわし・さば漁が不調であり、大勢は変わらない。内陸部では競合店の出店が積極的に行われていることで客足が分散してきている。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・セールが始まったが、客の買上率が低い。
家電量販店（店員）	単価の動き	・冷蔵庫、洗濯機、エアコンといった夏物家電の動きが鈍く、前年を下回った。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・当店の販売量は予算をオーバーするなど、かなり良かったのだが、周りの様子を見ると、どこも予算未達で7割あれば良いという状況であるため、前月と変わらず景気はあまり良くない。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・新型車の納期を迎えるとともにカーナビの需要が伸びており、売上は前年比105%程度に伸びたが、来客数は前年比98～100%と前年とあまり変わらない。6月も来客数が減少していたことから、景気の回復が感じられない状況にある。
その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が安定しているため、景気は変わらない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・参議院選挙があった割には忙しく、あまり暇な日なかった。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊需要が外国人観光客の団体旅行から、国内観光客の個人、グループ旅行へとシフトしつつあるものの、宿泊客数は前年比でマイナス傾向となっている。その反面、客単価は若干プラス傾向となっている。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・当業界にとって円高は好材料であるが、海外でのテロが収まらず、海外旅行者にとって不安が大きいため、全体としては変わらない。
タクシー運転手	来客数の動き	・7月は天気のいい日が多かったこともあり、タクシーの利用はほぼ前年並みであった。タクシー1台当たりの売上はほぼ前年並みであったが、乗務員不足で稼働率が下がっているため、会社の売上は若干のマイナスであった。
タクシー運転手	来客数の動き	・この3か月間、観光客やゴルフ客も含めて、例年並みの利用客数であった。
タクシー運転手	販売量の動き	・販売量は増加しているが、天候や気温によるところが大きく、景気自体が上向いているとはいえない。
通信会社（社員）	販売量の動き	・特段目を見張るような商材も発売されていないなか、前年の販売量を維持することを重要課題として取り組むことで、どうにか前年をクリアできている状況にある。ただ、そのために値引きなどの販促費が超過傾向にある。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・7月25日時点の利用客数が前年比102.4%とほぼ前期並みとなっている。
美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期、客単価ともに一定水準で推移しており、あまり変化のみられない状況が続いている。

	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・観光業界、ホテル・宿泊、飲食は引き続き好調だが、建設業、小売などにはその好調さがなかなか反映されてこない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数と客単価の数字がともに落ちている。特に高額商材の売行きが鈍い。
	一般小売店〔酒〕(経営者)	単価の動き	・飲料水はそこそこの売上を確保しているが、このところ当社の主力商材である酒類、特に高額商材の売行きにブレーキがかかってきており、なかなか売上が上向いてこない。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・7月1日からのセールは前年とは違いスタートが良かったものの、中旬以降に失速したことで、衣料品の売上は前年比95%となっている。中元商戦は参議院選挙の影響も多少あり、前年比97%とやや厳しい状況にある。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・3か月前と比べると販売量が11%ほどダウンするなど、依然として低迷している。ただ、5月から7月までの3か月間でみると微増傾向で推移している。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・ビールやたばこなどの嗜好品の販売量が減少している。
	コンビニ(オーナー)	来客数の動き	・7月の売上は前年比95%であった。前月と同様に同一チェーンの新店オープンの影響で苦戦している。ただ、そうしたなかでも、ここ数年、売上が右肩上がりのような重は予約販売が前年比105%となるなど、前年を上回った。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・先行きが不透明なことから、3か月前と比べて販売量がやや悪くなっている。
	高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・7月は前年ほどの落ち込みはみられなかったが、なぜか予約以外のフリー客が少なく、来客数、売上ともこの3か月で最も数字が悪かった。連休があると客の入込が読みにくく、対処に余計な神経を使うことになる。
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・円高の影響なのか、以前と比べて中国、台湾の客が減少している。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・旅行業の場合、本来であれば夏休み需要の追い込み時期となるが、今年は来客数が増えることもなく低調に推移している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・当地の基盤産業である農業において、農作物の生育状況の悪化が伝えられ、先行き不安が増大していることで景気がやや悪くなっている。
	タクシー運転手 通信会社(企画担当)	販売量の動き 販売量の動き	・わずかではあるが、7月は客の需要が減っている。 ・低価格競争の影響で自社の通信サービス料金よりも格安の会社への加入者が増えており、札幌圏を中心に販売量が減っている。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・消費税増税の再延期が決まってから、客との商談時間が長くなってきている。	
悪くなっている	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・国内客、外国人観光客ともに不振である。
企業動向 関連 (北海道)	建設業(従業員)	取引先の様子	・新規着工予定の建築工事について建設会社に見積依頼をしたところ、現場がフル稼働で職員並びに現場労務者の手配に見通しが得られないため、ほとんどの新規案件を断っているとのことであった。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕(総務担当)	受注量や販売量の動き	・今年度に入り、月を追うごとに売上の前年比が上向いてきている。
やや良くなっている	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・販売量の前年比が伸びている。3か月前からそうした動きが継続している。
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・分譲マンション、商業施設を中心に民間建築工事の受注が堅調に推移している。特に商業施設については他社からの引き合いも出てきている。
変わらない	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると変わりはないが、前年からみると5%ほど販売量が落ち込んでおり、景気はやや悪い状況のまま推移している。
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・円高の影響や外国人観光客の需要低迷などが広がりつつある。それらの影響を受けて、大都市圏における消費者の購買意欲が減退してきている。
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・スポット需要の現場物件輸送がそこそ動いているため、3か月前よりは上向きだが、レギュラー需要の貨物量が減っており、予想以上に数字が上向いてこない状況にある。

	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・今夏は本州地区で猛暑が予想されていたものの、関東地方の梅雨明けが遅れたことなどから、季節商材である飲料関係の荷動きが今一つである。	
	金融業（従業員）	それ以外	・道内の公共工事請負金額が増加に転じた一方で、外国人観光客の入込の伸び率の低下や中国人観光客の爆買いの沈静化によって、これまで道内景気をけん引してきた観光関連業種の業況に減速感がみられ始めている。ただ、全体で見れば、景気は大きく変わらない。	
	司法書士	取引先の様子	・建物の建築や増改築などがこの時期としては低調に推移している。土地の取引も例年と比べて低調である。	
	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復感がなく、住宅着工数の伸びてこない状況が続いている。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・業界によって景況感に差がみられる。自動車業界は好調のようだが、他の業界は横ばいで推移している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・依然として商談の引き合い件数が低調に推移している。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の仕事量は増加傾向にあるが、販売額はほとんど変わらない。内容を分析すると、設備機械が伸びているものの、それ以外の一般商材が減少しており、結果としては横ばいで推移している。	
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子	
	悪くなっている	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・事務系の派遣ニーズが増えている。また、営業及び管理系の人材の採用ニーズも高まっている。これらのことから、企業において緩やかではあるが業績が回復していることがうかがえる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年を2.9%上回るなど、2か月ぶりに前年を上回ったほか、月間有効求人数も前年を1.0%上回るなど、11か月連続で前年を上回った。
	変わらない	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・今年に入ってから求人広告受理件数が前年とほぼ同じような水準で推移しており、7月も大きな変動はみられなかった。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・求人倍率は1.0倍となったが、フルタイム求人の募集賃金に目立った上昇はみられなかった。正社員の求人件数もあまり伸びていない。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・アルバイトやパートの求人が減少している。景気の先行き不透明感や思うように採用できないなどの理由で様子見している企業も多い。7月があまり暑くならなかったためか、特に小売業界の求人が減少傾向である。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告の掲載件数が前年と比較して減っている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が76か月連続で前年を上回っているなかで、新規求人数が2か月連続で、月間有効求人数が4か月連続でそれぞれ減少している。特に正社員求人の減少幅が拡大している。
		学校〔大学〕（就職担当）	それ以外	・各企業の採用担当者との懇談のなかで、先行きに対しての若干の不安感がうかがえる。
	悪くなっている	-	-	